

スギヒラタケの生理・生態特性と含有物質の関連性の解明

1 中核機関・研究総括者

独立行政法人森林総合研究所 石原 光朗

2 研究期間

2005 年度 (1 年間)

3 研究目的

2004 年、東北・北陸地方を中心とした日本で急性脳症によって 19 名の死亡が報告され、同患者の多くがスギヒラタケを摂取した後に発症している。厚生労働省事業で、発症事例研究、発症機序解明、有害成分分析などの試験研究が実施されてきたが、これまでのところスギヒラタケと急性脳症との因果関係について解明されていない。

このため原因究明の困難性を解決する一方策として、スギヒラタケの生理・生態的特性等を基盤とした含有成分の変動解析や多系性の有無の検証により、生理・生態と有害成分の関連性の解明を行う。

4 研究内容及び実施体制

① スギヒラタケの生理・生態特性の解明 ((独) 森林総合研究所)

全国各地からスギヒラタケを採取し、環境変化の因子等による変化を含めて生理・生態特性の解明を行う。

② 動物試験による検体の毒性評価 (高崎健康福祉大学)

マウスやラットへのスギヒラタケ抽出物の投与により、検体の毒性評価を行う。

③ 多系性の有無の検証と含有成分の変動解析 ((独) 森林総合研究所)

生理・生態特性の解明や動物への投与試験の結果に基づき、スギヒラタケの多系性の有無の検証と含有成分の変動解析を行う。

5 目標とする成果

発生箇所や気象条件などの具体的因子によるスギヒラタケの変異の可能性、多系性の有無と含有物質・有害成分との関連性が解明され、有害成分の摂取を回避する手法検討のための基礎的情報を収集することにより、事故の事前防止や東北・北陸地方の食習慣の継続を可能にすることが期待される。

スギヒラタケの生理・生態特性と含有物質の関連性の解明

